

第五回◎ヴィンテージウッド

デザインを越える力をもつ古材

北アメリカ東海岸の開拓者は、広大な原生林から良質な木を伐採して家を作った。大切に使われてきた建物は歳月を経て、なお魅力を増している。

[vintage wood]

「古民家には『生活の記憶』が染み込み、独特の雰囲気と魅力を醸し出す。10年ほど前から日本各地で古民家再生や古材への関心が高まり、建築家や歴史家を中心にさまざまな取り組みが続いてきた。

住宅の古材ブームに先立ち、欧米の古材を輸入して使い始めたのは店舗だった。それまではムク材に塗装などのエージング(古び)加工を施して「雰囲気」を演出することが多かったが、本物の古材がもつ存在感が求められたのだ。店舗の場合輸入古材は、ヨーロッパの雰囲気」を表現する格好の素材だ。

大梁や柱、フローリング、店舗のカウンタートップの素材は、空間の雰囲気を左右する力がある。木材は「生き物」であり、樹種や産地の気候風土などによる多様性こそ魅力だ。さらに古材は、歳月を物語る多彩な表情を持ち合わせている。

小山製材木材(栃木県小山市)は、2年前からカナダの古材の輸入販売を始め

た。カナダは世界最大級の森林資源に恵まれた林業大国だ。新大陸開拓時代は木材で家を建て、家具を作り、薪で暖を取る暮らしだった。寒冷地は年輪が緻密で質の高い木材が得られる。

「民謡調」の国産古材とは雰囲気が違う。カナダの古材は日本と樹種や気候も異なる。開拓時代の郷愁も魅力です」と小山製材木材の坪野谷修一専務はいう。坪野谷さんは総合商社に12年間勤務し、木材などの輸入に携わっていた。その経験を活かしながら「扱う商品に愛着がもてる仕事があった」と、カナダ産古材に着目したという。

アーミッシュの木工技術を活かす
坪野谷さんはカナダに何度も足を運び、古民家や納屋を手仕事で解体して必要な古材を選別する仕組みを作り上げ、伝統的な木工技術をもつアーミッシュに解体を依頼した。アーミッシュはキリスト教の宗派で機械文明を否定し自給自

足を基本とする。彼らは農業の傍ら、家具から住宅まで木工や鍛冶で生活の道具を作る。

建物には有形の歴史があるが、アーミッシュの技は無形の伝統を継承している。梁や柱の角材の中には「現在では手に入らない稀少な材があります」と坪野谷さん。1本1本、ていねいに古材を選びすぎる「ヴィンテージウッド」だ。古材には変色や虫食いがあつたり、金具が付いていたり、「宝探し」の楽しさがある。

板材はカナダで燻蒸し、梁(角材)は日本で蒸気による燻蒸を行い、無塗装で販売している。用途の約80%は店舗用、残りは建築家や施工会社が建てる住宅など。エンドユーザー向けの販売は対応していないので、建築家や施工会社の担当と一緒に素材探しをすれば効果的な古材利用ができるだろう。実際、「クライアントの要望を受けて、初めて古材を探してきた建築家やデザイナーも多い」(坪野谷さん)。

カナダ産の古材は、ダグラスファー(米松)、ホワイトバイン、ヘムロック、ツガなどの針葉樹とメープルやビーチ(ぶな)、ニレなどの広葉樹と豊富な樹種が特徴だ。100年前は原生林(二次林)から樹齢数百年という巨木を伐採すること

ができたが、現在は原生林(オールドグロス)の伐採は厳しく規制されている。

カナダの良質な古材はアメリカで人気があり、価格も5年前の2倍に上昇したという。解体できる建造物にも限りがあり、古材を安定供給できるのは今後約10年と見られている。上質な古材(ヴィンテージウッド)には、比類ない存在感がある。家を建てる時、1本の大梁や柱など上質な素材はデザインを越える力になる。それが自然素材の魅力だ。

「このような木材の魅力を理解していただき、愛着を感じていただける方に大切に使用してほしい」と坪野谷さんは古材への「こだわり」を語る。

カナダ産の古材は、ダグラスファー(米松)、ホワイトバイン、ヘムロック、ツガなどの針葉樹とメープルやビーチ(ぶな)、ニレなどの広葉樹と豊富な樹種が特徴だ。100年前は原生林(二次林)から樹齢数百年という巨木を伐採すること



上/築150年の倉庫と納屋を解体する。倉庫の屋根にはアーミッシュの職人チームが上り、解体準備を始めた(カナダ東海岸)。左/小山製材木材(小山市)に届いたカナダの古材は板材と角材に分類、保管している。

「産地直送」
カナダから
古材が届く。

上/ほぞ穴や洋釘を抜いた跡が残り、表面を手斧で荒削りした風合いが古材らしい。下/ニレ材表面の小さな傷は、古い虫食いの跡。薫蒸を施し実際に支障はない。





左／柱梁構造の倉庫を解体するアーミッシュの職人たち。アーミッシュの木工職人は伝統の道具を使い手作業で解体する。左下／機械文明を否定するアーミッシュは今でも馬車が大切な乗り物だ。なかなか写真撮影も許してもらえない（カナダ東海岸）。下／古材は樹種や経年変化により、多種多様な表情をもっている（小山製材木材）。

写真提供／小山製材木材



小山製材木材
<http://www.oyamalumber.com/>



“本物の素材”で作る カントリーハウスの 質感。



右上／小山製材木材のカナダ古材を梁やフローリング、家具に使ったインテリア。「虫の詩人の館」（NPO法人 日本アンリ・ファール会、<http://www.fabre.jp/>）、同館地下1階に、アンリ・ファールが生まれた南フランスの民家を再現した。下／「虫の詩人の館、南フランスの民家」に設置された古材による扉。左上／小山製材木材ショールーム正面。左下／同ショールーム内には無塗装の古材サンプル板が並び、質感の違いがわかる。●一般への小売りは対応していません。

